

管理運営評価シート(令和4年度)

施設名称	村上市養護老人ホームやまゆり荘	評価対象年度	令和 4 年度
指定管理者名	社会福祉法人 阿賀北福祉会	所管課	介護高齢 課
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日(5年間)	評価者(課長)	大滝 きくみ

1 令和4年度の実績

(1)事業実績

利用実績	令和4年度当初入居者数 39名、途中入退所 入所3名、退所9名 年度末入所者 33名
サービス向上の取組	職員倫理、行動規範の周知徹底及び業務マニュアルの遵守に努めている。サービスに関して継続的に改善を図るとともに人事考課制度を運用し、職員の意欲向上、人材育成を図り、また、人権擁護の意識向上のための内部研修を実施するなどしサービスの向上に努めた。

(2)管理経費

(単位:千円)

区分		前々年度 (2年度)	前年度 (3年度)	当該年度 (4年度)	合計	備考
収入	指定管理料	106,483	106,483	108,917	321,883	基本協定額: 544,068 千円
	利用料金				0	
	事業収入	362	400	602	1,364	短期宿泊事業収入
	自主事業収入				0	
	その他	1,884	30	51	1,965	
	収入合計 ①	108,729	106,913	109,570	325,212	
支出	人件費	56,511	56,800	56,569	169,880	
	福利厚生費	187	207	172	566	
	事務費	3,325	3,350	3,560	10,235	
	管理費	26,053	25,939	27,284	79,276	
	水道光熱費	7,595	7,496	8,494	23,585	
	修繕料	1,866	1,600	1,855	5,321	
	使用料・リース料	683	665	655	2,003	
	手数料・保険料	274	259	287	820	
	委託料	15,635	15,919	15,993	47,547	
	事業費	17,766	17,622	17,771	53,159	
	自主事業経費				0	
	その他	1,066	174	18	1,258	
支出合計 ②	104,908	104,092	105,374	314,374		
収支差額(①-②)	3,821	2,821	4,196	10,838		

2 共通評価項目

(記入者)自己評価…指定管理者 所管評価…施設担当課

評価項目	判断基準	自己評価	所管評価	備考 (◎、△、×のときは評価内容、その他特記事項があれば記入)
公の施設の平等な利用の確保	事業内容等は、一部の市民や団体に対して、不当に利用を制限又は優遇するものではない。	○	○	
	社会的弱者の公平利用について、配慮されている。	○	○	
情報公開、個人情報保護の取組	情報公開、個人情報保護に係る措置が適切に講じられている。(書類の保管、社員への周知等)	○	○	
	情報公開、個人情報保護について、内部規約の整備や実施基準等が考慮されている。	○	○	
従業員の労働条件など法令遵守による管理運営	適切な労働条件や運営体制が確保されている。	○	○	
	関係する法律、条例等を理解し遵守している。	○	○	
業務仕様書の水準を満たしたサービスの提供	公の施設の管理運営にふさわしい理念やコンプライアンスの取組等、透明性の高い運営を行っている。	○	○	
	施設の設置目的を理解し、仕様書に指定された業務を実施している。	○	○	
創意工夫によるサービス向上と自主的な経営努力	サービス向上のための取組を行っている。	○	○	
	利用者の要望や意見を把握し、その対応方法が明確になっている。	○	○	
	施設やサービスの利用促進・拡大を図るため、適切な広報や的確な手法を行っている。	○	○	
	自主事業の実施方針及び内容は施設の設置目的を果たすものとなっており、効果的に実施されている。	○	○	
経営努力による経費縮減の取組	安全な管理体制及び事業実施に対して、適切な収支決算となっている。	○	○	
	縮減の取組がサービス低下につながらず、バランスが図られた事業内容となっている。	○	○	
	管理効率化等による余剰分を新たなサービス展開による施設効用の拡大につなげている。	○	○	
	新たな収入の創出等、経営の安定化に向けた独自の取組を行っている。	-	-	
適正な人員配置や人材育成の取組	適切な人員や有資格者の配置、勤務体制、労働管理となっている。	○	○	
	人材育成に対する積極的な取組が講じられており、職員研修等の人材育成に取り組んでいる。	○	○	
安定的な財務基盤による管理運営	指定期間で安定的な管理運営を行う財務基盤を有している。	○	○	
事件・事故や利用者への対応	苦情、事故、トラブルを防止するための具体策や対処方法は適切である。	○	○	
	利用者の安全確保と緊急時の対応・体制は適切に整備されている。	○	○	
地域貢献への取組	市内業者の活用や地元雇用の促進など、地域振興に寄与する事業内容である。	-	-	
	地域と連携した事業の実施や、地域活動への参加等による地域貢献に取り組んでいる。	○	○	

◎:協定等の内容を超える水準で業務を履行している ○:協定等の内容どおり業務を履行しており適正

△:協定等の内容に対し、一部不履行がある ×:協定等の内容に不履行があり改善の必要がある -:該当なし

3 業務実施上の課題(指定管理者が記入)

(1) 指定管理業務実施上の課題 ①ニーズの多様化～認知症のある入所者への専門的な支援、ADL低下に伴う介護、日常生活における支援、入所者の状態に応じた食事提供や生きがいにつながる活動等、求められるニーズの多様化が伺える。②専門性の向上～多様化するニーズに対応できる職員の専門性の確保、支援の質の向上が求められる。③施設設備の老朽化～施設全体のバリアフリー化と居室のプライベート空間の確保、既存の設備等の更新・修繕等が必要。(スプリンクラー設備の更新、地下タンク漏洩防止措置等)④地域に貢献できる施設運営～新規入所者において専門性が問われるケースや緊急避難的な利用ケースなどが増加傾向にある。そうしたニーズに幅広く対応し、地域に貢献できる施設運営が求められる。
(2) 課題解決に向けた取組 ①入所者のニーズに応えるため、職員全体でアイデアを出し合い、協力して取り組める支援体制の充実と強化を図った。②研修計画を策定し外部研修やオンライン研修の充実を図り、支援の専門性の確保と質の向上に努めた。③各種大規模修繕である為、具体的な時期等は今のところ計画なし。引き続き村上市と協議していく必要がある。④8月の豪雨水害にて被災した方、2名の短期入所受け入れを行った。そのうち1名はやまゆり荘入所の運びとなった。新規入所者に関しては、3名。退所に関しては9名であった。新規入所者数より退所者数が上回っている状況である。
(3) その他 ①利用者からの主な意見や苦情、対応策 プライベート空間がなく、二人部屋での生活では窮屈である。年を取ってから他者と同室で生活することは難しい。設備も古く使いにくい、冬季間は廊下が寒く、洗面所はお湯が出なく辛い。対応策～設備面に関しては対応のしようがない部分が多いが、同室者との関係に留意し、その都度、助言や注意、場合によっては居室替えにて対応している。 ②その他

4 全体的な評価

(1) 指定管理者の評価 施設生活において、新型コロナウイルス感染予防の観点から、行事の縮小や中止、ボランティアや慰問などを休止せざるを得ず、利用者には、大変窮屈な生活であったと思う。しかし、利用者・職員の協力により、施設内での新型コロナウイルス感染症の集団感染には至らず、令和4年度を終えることができた。施設行事では、利用者が楽しむことを念頭に、夏祭りや文化祭を開催した。また、毎月のレクリエーションにおいても、参加者が楽しめるメニューを考案して行い、好評をいただいた。今後、新型コロナウイルスの感染症法上の分類の変更に伴い、やまゆり荘での施設生活においても徐々にコロナ禍前の状況に戻っていければと考える。利用者の状況としては、高齢者支援室主導のもと、成年後見人申立て手続きを3件行った。今後の高齢化に伴う心身の機能変化により、施設移管が必要になった場合、出来る限り迅速な対応を図っていくことが重要であると思われ、そのためにもやまゆり荘利用時、または、他の施設への移行に際しても、法的根拠のある後見人等の選定が必須であると思われる。身元引受人が不在であったり、家族の協力を得られないケースでは、措置市町村主導のもと、後見人申立て手続きに関し積極的に協力していきたい。
(2) 施設所管課の評価 新型コロナウイルス感染予防の観点から制約が多い中、入所者のことを考え工夫した行事等を行っている。入所者の高齢化などにより支援が必要な方が増えている中、職員全体で統一した支援を心がけ、本人の要望や意見をできる限り尊重した支援の在り方や業務内容について検討しながら業務にあたるなど、利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立った支援に努めている。人事考課や研修をととして職員の資質の向上を図っており、市との連絡・連携も適切に行われている。
(3) 次年度の管理運営に対する指導事項等(施設所管課) 引き続き、入所者の要望の把握や老朽化した施設の異常箇所早期発見に努め、入所者への良好な環境提供に努めていただきたい。また、生活管理指導短期宿泊については、虐待等緊急な案件が増えているが、今後も迅速な対応をお願いしたい。